

調査範囲：下松市、田布施町、岩国市（山口県）調査報告

調査日：平成 30 年 7 月 14 日

調査団員：鈴木素之（山口大学）

下松市



【JR 山陽本線斜面崩壊】



【JR 山陽本線斜面崩壊】

JR 山陽本線の下松市と光市の境界付近の斜面崩壊。このような崩壊が鉄道沿線で多数発生していた。当該箇所の地質は泥質片岩であり、崩壊面がくさび状になっていたので、構造的な弱面が潜在していたものと推定される。また、崩壊斜面の横には沢地形になっており、水が流下していた。集水地形が崩壊斜面に隣接する斜面上方にあることをうかがわせる。（鈴木素之・山口大学、7 月 14 日調査）



【島田川護岸崩壊】

河川の増水に伴う侵食による護岸崩壊。河川の蛇行部において河川流水の攻撃を受ける側の護岸が崩壊した。また、この周辺域では氾濫による浸水被害が起こった。（鈴木素之・山口大学、7月14日調査）

田布施町



【田布施町地すべり】

建設中の道路のり面で地すべりが発生した。地形は尾根の標高が低い丘陵である。花崗岩と片麻岩が複雑に入り込む地質構造が見られた。風化が進み、土質としては粘土化していた。（鈴木素之・山口大学、7月14日調査）



【道路沿いの斜面崩壊】

道路上方の斜面崩壊。崩壊面がくさび状になっており、崩壊には構造的な要因が加わったものとみられる。また、くさび状の部分はガリー侵食されており、地下水あるいは地表水の流下があったものとみられる。



【河川沿いの道路崩落】

斜面崩壊が発生した場所の直下の道路が崩落していた。道路は河川の攻撃を受けて侵食された結果、崩落したものとみられる。道路上方の斜面崩壊によって道路部分は崩壊していなかったため、双方が連動して発生したものではないと考えられる。(鈴木素之・山口大学、7月14日調査)

岩国市周東町瀬越（おそごえ）



【瀬越地区土石流 1 堆積部その 1】

周東町瀬越地区では大規模土石流が発生し、下流域の家屋等に被害が発生した。堆積部には土砂のほかに、岩塊や流木が見られる。



【瀬越地区土石流 1 堆積部その 2】

同地区では土石流が数箇所が発生し、周辺に大きな被害を生じた。流出した土砂及び流木が河川を閉塞し、その結果、河川水が溢れ、周辺部が浸水した。堆積物の観察から、崩壊箇所の地質は花崗岩、チャートといえる。（鈴木素之・山口大学、7 月 14 日調査）



【瀬越地区土石流 2 源頭部】

土石流 1 とは別の箇所で発生した土石流の源頭部。源頭部付近に落ち残りの岩塊があり、注意が必要である。地質は花崗岩で、節理が多い。(鈴木素之・山口大学、7 月 14 日調査)



【瀬越地区土石流 2 堆積部】

土石流の末端付近の土砂堆積状況。周辺の家屋や田畑に被害が発生した。(鈴木素之・山口大学、7 月 14 日調査)



【瀬越地区土石流 2 家屋被害状況】

山寄りの家屋にも土砂による被害が生じていた。(鈴木素之・山口大学、7 月 14 日調査)